



成果指標				
成果指標	指標を設定しない。			
指標設定の考え方	具体的な事業は実施せず、企画全般の事業を執行するための管理経費であるため、指標を設定できない。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	目標28年度
目標	0	0	0	0
実績	0	0	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	<p>県・市町連携事業の取組みについては、全課へ情報提供するとともに連携を取りながら対応を図った。本取組みは県の重点施策として継続した実施が見込まれるため、更に県・市町と関係各課が連携を深められるとともに、連携事業の円滑な推進が図られるよう、取り纏め課としての役割に専念したい。プロスポーツの取組みについては、イベント的な扱いに終始している状況である。地域やスポーツ団体との連携を強めるなど、スポーツの普及や促進に繋がるよう、企画部門としての知恵を出したい。</p>			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	<p>県・市町連携推進については、連携推進会議において平成24、25年度実施施策の検証のうえ、平成26年度からの新規連携施策が決まり、本市においても、庁内で調整し関係各課において施策への取り組みを進めた。本施策についてはさらに県・他市町との連携を強め、掲げられた施策の中で本市において実現可能な独自性を生かした施策を展開していく必要がある。プロスポーツ関係の取り組みでは、イベント的施策となりがちで、マンネリ化している傾向にもあるため、ブランドロゴ、キャッチコピーなど新たなブランド戦略と一体となった、本市ブランド産品を強力にアピールできる場として活用していく必要がある。</p>			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	27年度から松山圏域での新たな連携事業の検討が始まる。さまざまな分野で松山市との連携について協議を進めることとなるため、所管課との調整を図ること。

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。